

ANNUAL
REPORT 2022

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター

HEALTHCARE AND WELFARE SUPPORT CENTER

CONTENTS

 01 はじめに

 02 地域連携室

 03 医療福祉部門

 医療福祉の相談

 入退院・在宅療養支援

 04 がん相談支援センター

 05 難病医療相談支援室

 06 肝疾患連携相談室

01 はじめに

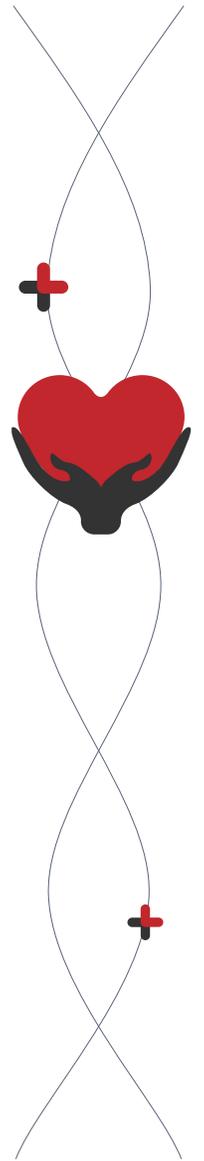
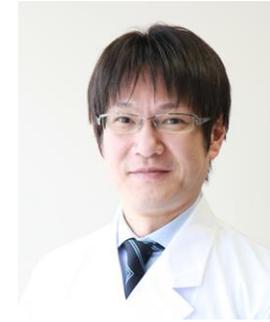
2019年に中国から始まった新型コロナウイルス感染症は日本において2020年春に第1波の流行として到来しました。以降、新型コロナウイルス感染症の対応に追われてきましたが、「オミクロン株」という驚異的な感染力を持った変異株により日本は2022年初頭から第6波、2022年夏に第7波、2022年年末から2023年年始にかけて第8波という新型コロナウイルス感染症の大流行に襲われました。特に第7、8波では高齢者での感染者も多く、在宅に戻ることができず転院調整が増え、同時に受け皿となる後方施設においてもコロナ感染症で受け入れ困難となって待機時間が長期化する悪循環を経験しました。これらは、2022年度の退院支援の中で転院数が軒並み増加していることに反映されています。

一方で新型コロナウイルス感染症と共存しながら、もしくは新型コロナウイルス感染症流行の出口を探りながら、通常診療を如何に維持していくかを意識した年でもありました。実際に2022年度は2021年度よりもコロナ感染症とは関係のない疾患での地域連携件数が増え、がんや難病支援の相談件数も増加しました。

2022年1月からメディカルサポートエリアでの個室で対応する入院前検査説明、情報収集も軌道に乗り、患者満足度が向上しました。同時に、ここからの情報をいかにシームレスに退院支援に繋げるかという課題が見えてきました。

本年報では、医療福祉支援センターの各部門における2022年度の実績を整理し、報告させていただきます。関係者の皆様に役に立てることを願いつつ、引き続きのご指導及びご支援をお願い申し上げます。

浜松医科大学医学部附属病院
医療福祉支援センター長
安田 日出夫



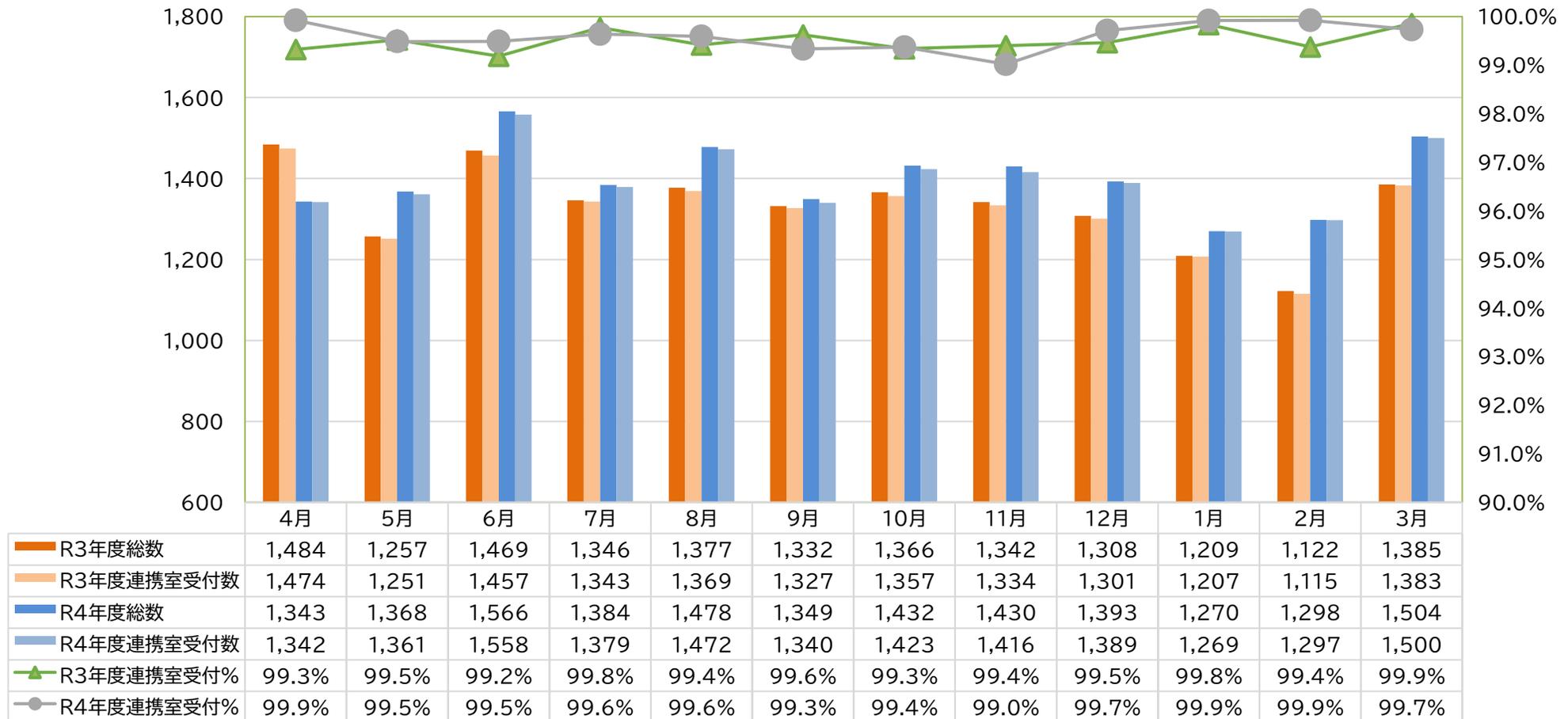


地域連携室

Regional Medical Cooperation Office

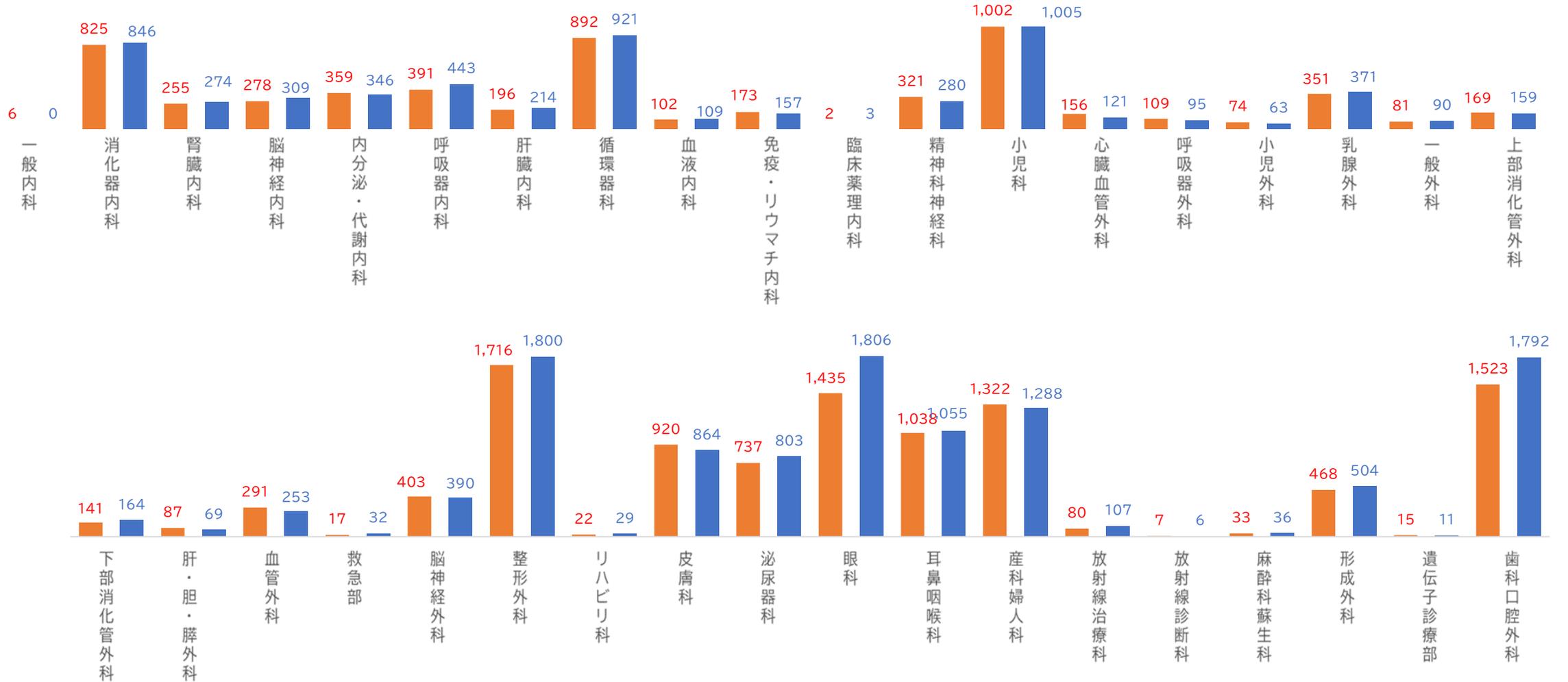
1 初診紹介患者数と地域連携室での受付患者数

令和4年度の初診紹介患者数は年間総数16,815件で、令和3年度の15,997件から818件増加した。
 紹介患者のうち地域連携室での事前受付患者は年間総数16,746件と令和3年度の15,918件から828件増加した。
 地域連携室での事前受付比率は年度平均99.6%となり、令和3年度の99.5%から0.1%増加した。



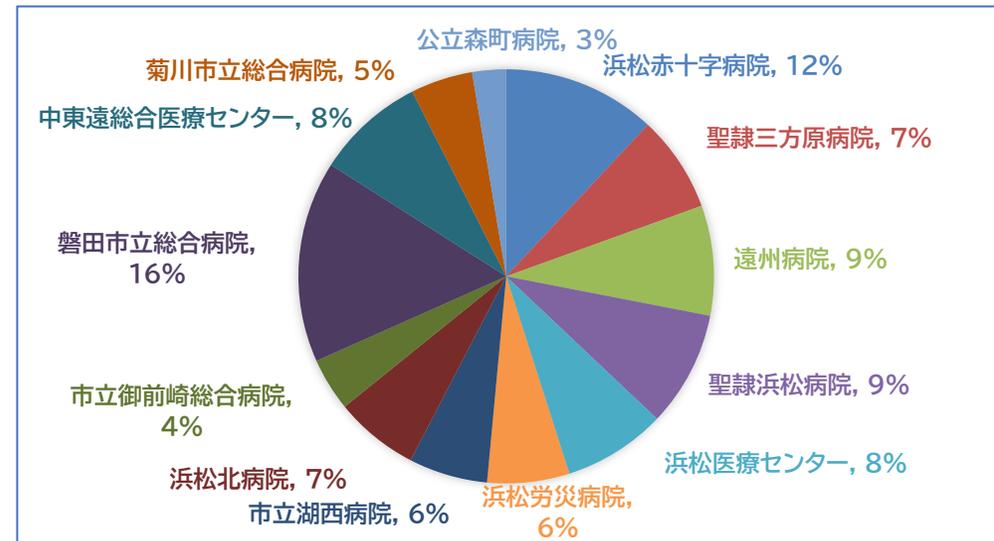
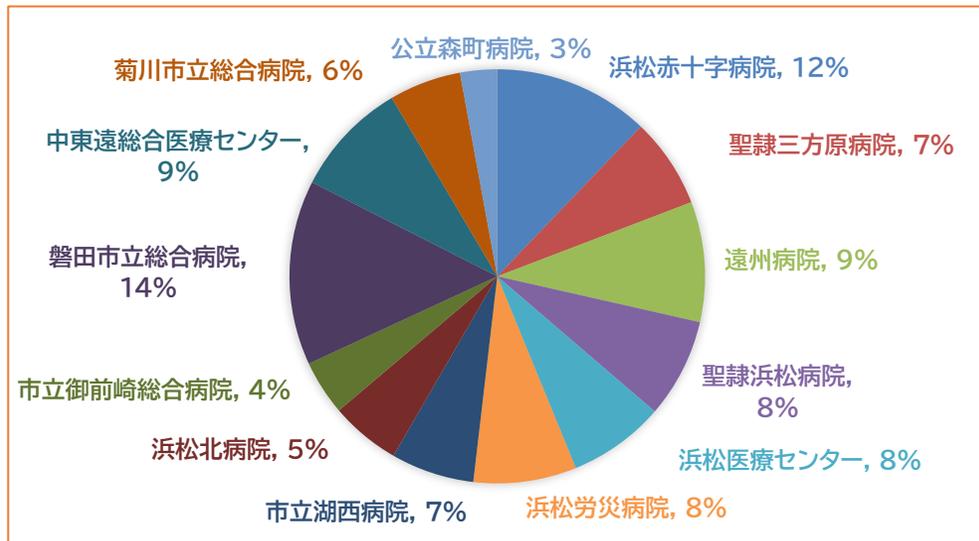
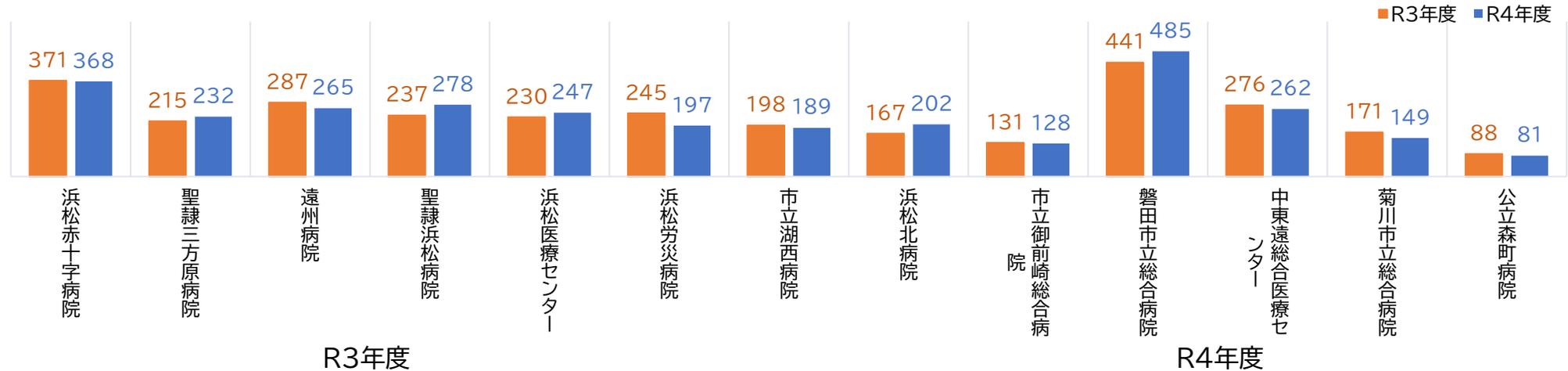
2 診療科別紹介患者件数

令和3年度と比較して件数の変化が目立つ診療科としては、眼科が371件、歯科口腔外科が269件増加した。



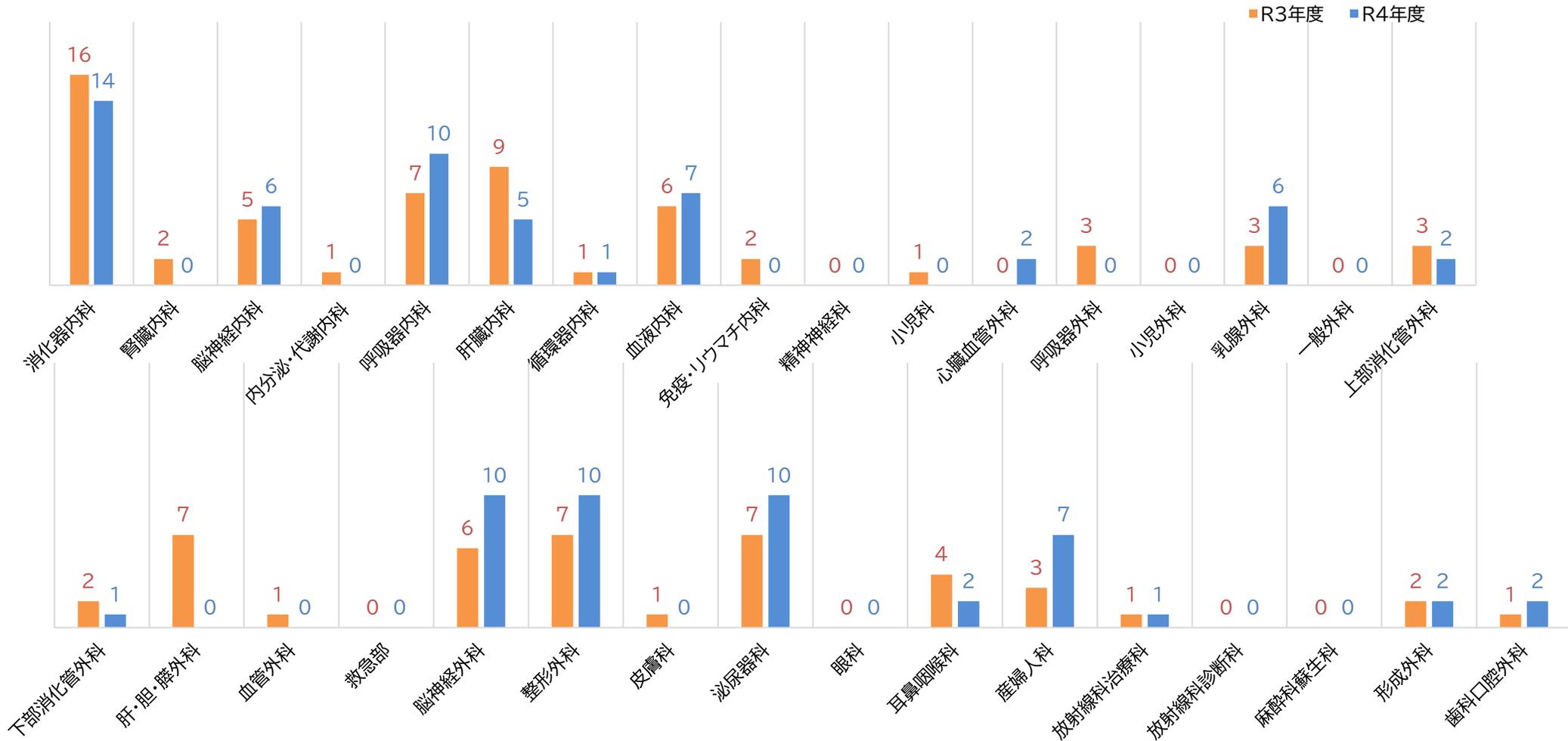
3 近隣医療機関からの紹介患者数の比較

令和4年度に近隣医療機関から紹介された患者総数は3,083件で、令和3年度の3,057件から26件増加した。割合で見ると、令和3年度とほぼ変わりはない。



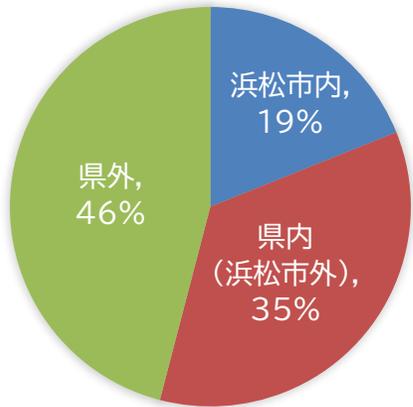
4 セカンドオピニオンの実績件数

令和4年度のセカンドオピニオン外来の実績件数は98件で、令和3年度の101件から3件減少した。



5 セカンドオピニオン依頼件数

令和4年度のセカンドオピニオン依頼件数は74件で、令和3年度の47件から27件と大きく増加した。静岡県内の医療機関への依頼件数は40件で全体の54%、県外への依頼件数は34件で46%である。診療科別にみると泌尿器科が7件と最も増加した。

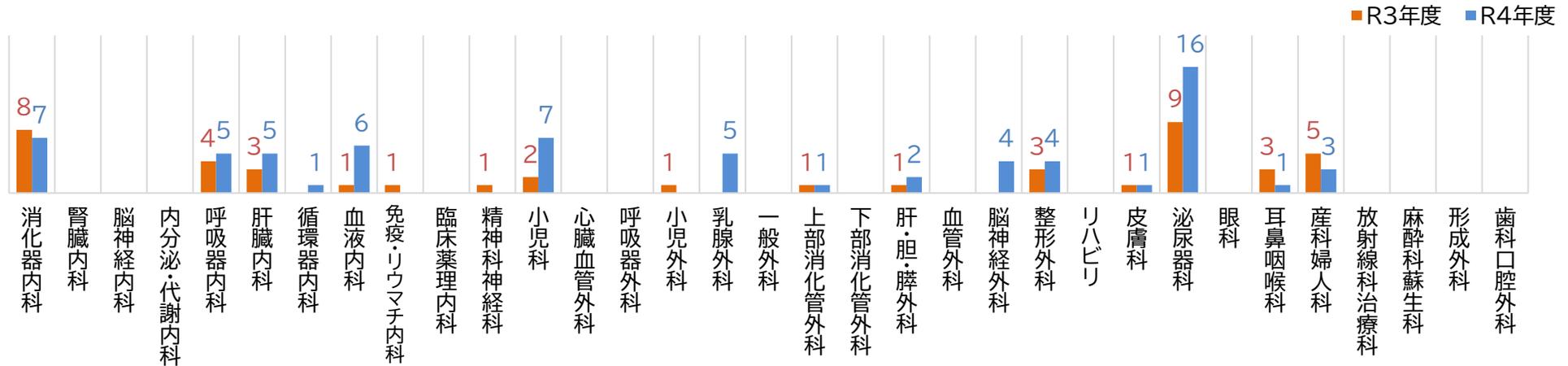


【依頼先医療機関】

静岡県立静岡がんセンター
聖隷浜松病院
国立がん研究センター 中央病院
がん研究会有明病院
名古屋大学医学部附属病院
愛知県がんセンター
千葉県がんセンター
兵庫医科大学病院
京都府立医科大学附属病院
名古屋セントラル病院
千葉県こども病院
日本医科大学武蔵小杉病院
聖隷三方原病院
相羽内科クリニック
浜松医療センター

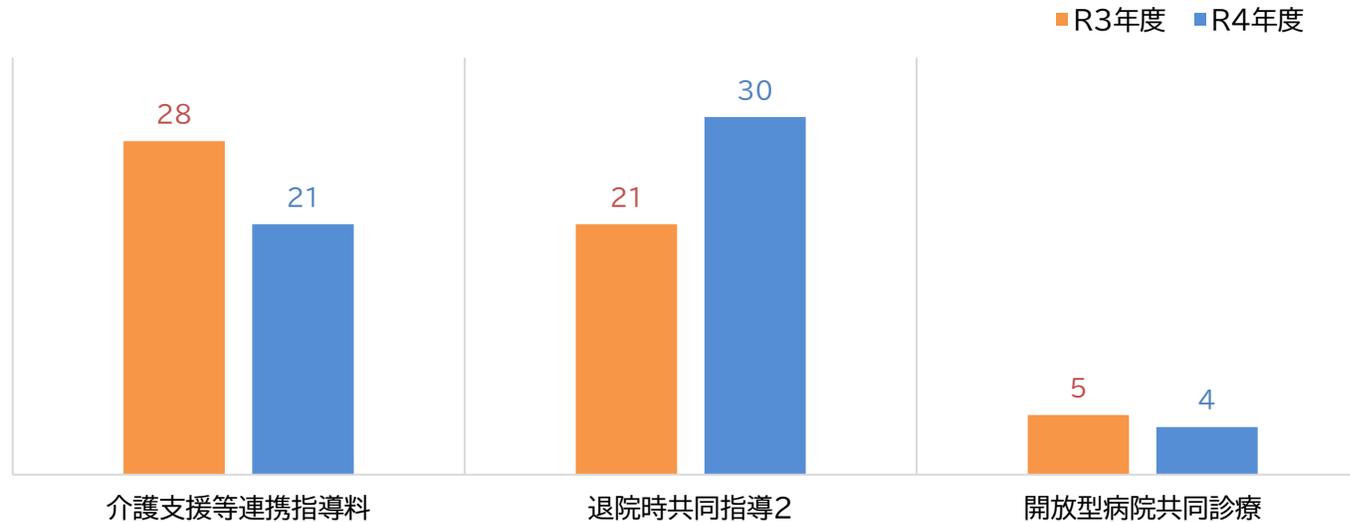
浜松医療センター
内科リウマチ科福間クリニック
国立がん研究センター東病院
国際医療福祉大学 成田病院
国立成育医療研究センター
第二川崎幸クリニック
済生会滋賀県病院
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
滋賀医科大学医学部附属病院
虎の門病院
松尾形成外科・眼瞼クリニック
亀田クリニック
神奈川県立がんセンター
総合東京病院
JCHO東京新宿メディカルセンター

渡辺医院・浜松オンコロジーセンター
あいち小児保健医療総合センター
セレンクリニック名古屋
誠敬会クリニック銀座
磐田市立総合病院
宇治病院
金沢大学附属病院
静岡県立総合病院
名古屋市立大学病院
静岡赤十字病院
みどりのまち整形外科
横浜労災病院



6 介護支援連携指導・退院時共同指導2・開放型病院共同診療実績

令和3年度と比較して介護支援等連携指導料の算定件数は7件減少、退院時共同指導料2は9件増加、開放型病院共同診療は1件減少した。



【令和5年度目標】

- ・地域連携室ICT化の推進
- ・地域連携パスの推進
- ・逆紹介率の向上



医療福祉部門

Medical welfare department



医療福祉の相談



入退院・在宅療養支援

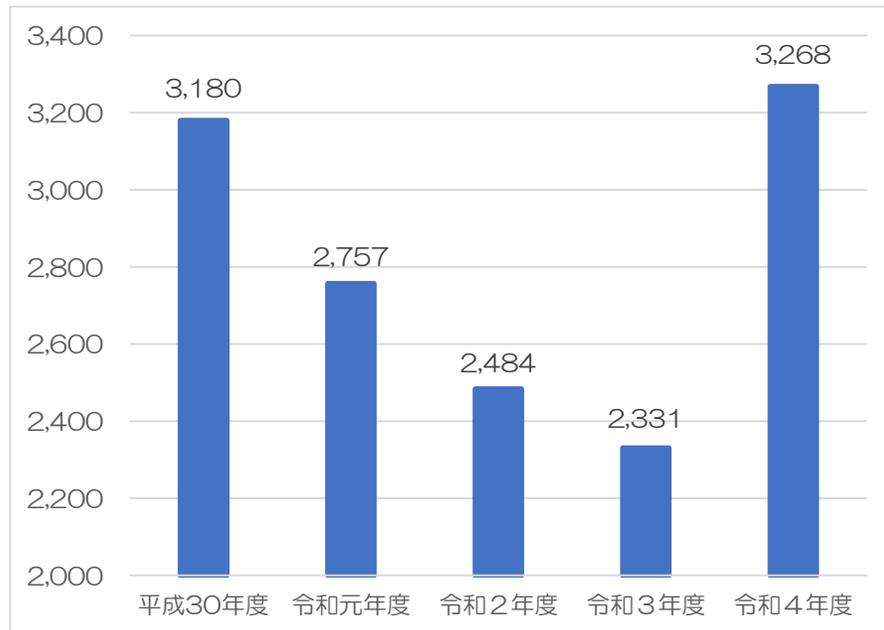


1 相談支援件数の推移

+ 新規相談件数

昨年度と統計の取り方を変更したため、973件増となった。新型コロナウイルスの影響は続いているが、入院外来ともに患者数は戻ってきているため、新規相談件数は増加している。面会や面談等、対面での対応が難しく、今まで通りに業務を行えない中、過去5年で一番多い相談件数となった。

表1 年度別新規相談件数(件)



+ 相談内容

相談内容は、例年通り転院支援や在宅支援が中心であり、次いで制度の紹介や医療費の相談件数が多くなっている(表2)。昨年度同様、オンラインでの退院支援カンファレンスを行い、開業医や訪問看護とWEB上で情報共有し、退院に繋げることができた。独居、キーパーソンなし等の患者が増えており、退院や転院に難渋するケースが増えている。

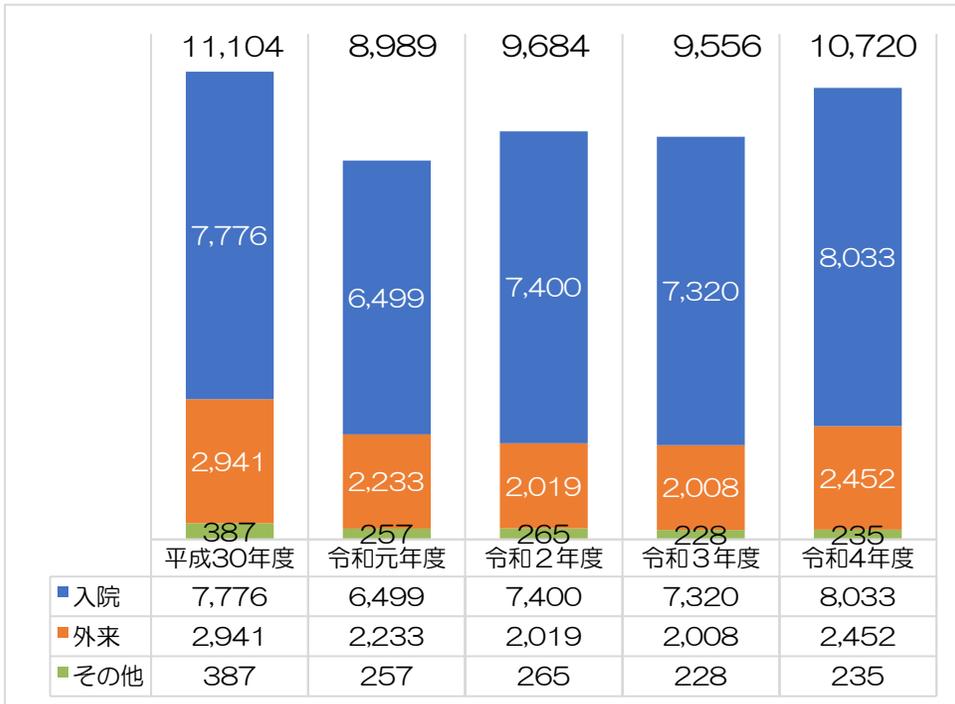
表2 相談内容別件数(件)

1位 転院支援	1,031	6位 医療処置	110
2位 制度の紹介	367	7位 当院への受診	96
3位 在宅支援	360	8位 在宅ケア支援	94
4位 医療費	307	9位 診療所・病院	85
5位 福祉介護の相談	131	10位 生活費	75

対応回数

対応した回数は、前年度より1,164回増加した(表3)。相談件数が3,268、1ケース平均3.3回対応をしていることになる。退院支援の場合、少ない対応で完結することもあるが、ケースによって難渋し対応回数が増えることもある。相談回数が年間10,000回を超えたのは4年ぶりとなる。コロナ感染前の対応数に戻ってきていることがわかる。

表3 年度別対応回数(回)



診療科別依頼件数

診療科別の依頼件数(表4)では、例年通り整形外科、脳神経外科からの退院依頼相談件数が多くなっている。整形外科では大腿骨地域連携パスに再参加しパスを利用しての転院を再開し、脳血管疾患については、脳卒中地域連携パスを中心に退院支援を行った。身寄りや協力者がいない高齢者が今後ますます増えることが予測されるため地域の連携を密にし速やかな転院退院ができるよう進めていきたい。

表4 診療科別の依頼件数

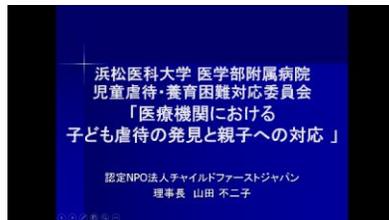
1位	整形外科	1,364	6位	消化器内科	650
2位	脳神経外科	1,195	7位	泌尿器科	580
3位	呼吸器内科	843	8位	神経内科	542
4位	小児科	782	9位	産婦人科	335
5位	循環器科	687	10位	耳鼻咽喉科	280



2 虐待対応

令和4年度の虐待に関する相談件数は児童虐待・養育困難ケース54件、高齢者虐待は3件となった。

今年度、MSWが中心となって児童虐待初期対応フローチャートの改定を行った。虐待(疑いを含む)を発見したときだけではなく、養育環境が心配される子どもや妊産婦を発見した際にも相談できるようにフローチャートを改定したことから、相談件数が大幅に増加した。またコロナ禍で定期開催が難しかった児童虐待養育困難対応委員会の定例会を規定通り3回開催実施できたことから、過去に対応したケースの症例検討を行い児童や家庭への支援方法について検証することができた。院内職員向けの研修会もWEB配信を利用したハイブリッド開催で2回行うことができ多くの職員が参加した。



3 障害年金相談会

社会保険労務士が来院し相談に対応する、障害年金相談会を年4回開催し、18名が参加をした。毎年開催している会のため、院内での認知度が少しずつ上がっている。外来や病棟の看護師から連絡があり対応するケースもあった。専門家と協力して行う貴重な会であり、有効な情報提供ができるので、来年度以降も継続していきたいと思う。

〔開催日〕

令和4年4月8日	4名
令和4年7月8日	7名
令和4年10月7日	4名
令和5年1月10日	3名
計	18名

障害年金相談会

相談無料

病気や事故などで日常生活が不自由になったり働くことが制限されたとき、障害基準を満たしていれば障害年金がもらえます。

年金制度のしくみとは？

受給額の計算方法

障害年金の基準は？

日程 07月10日(月) 事前予約枠-4名
当日受付開始-12:30

時間 13:00~17:00 当日受付終了-16:30
※当日の受付枠は先着順ではありません。

場所 浜松医科大学病院 外来棟1階 医療福祉支援センター

担当 静岡県社会保険労務士会所属 年金相談員

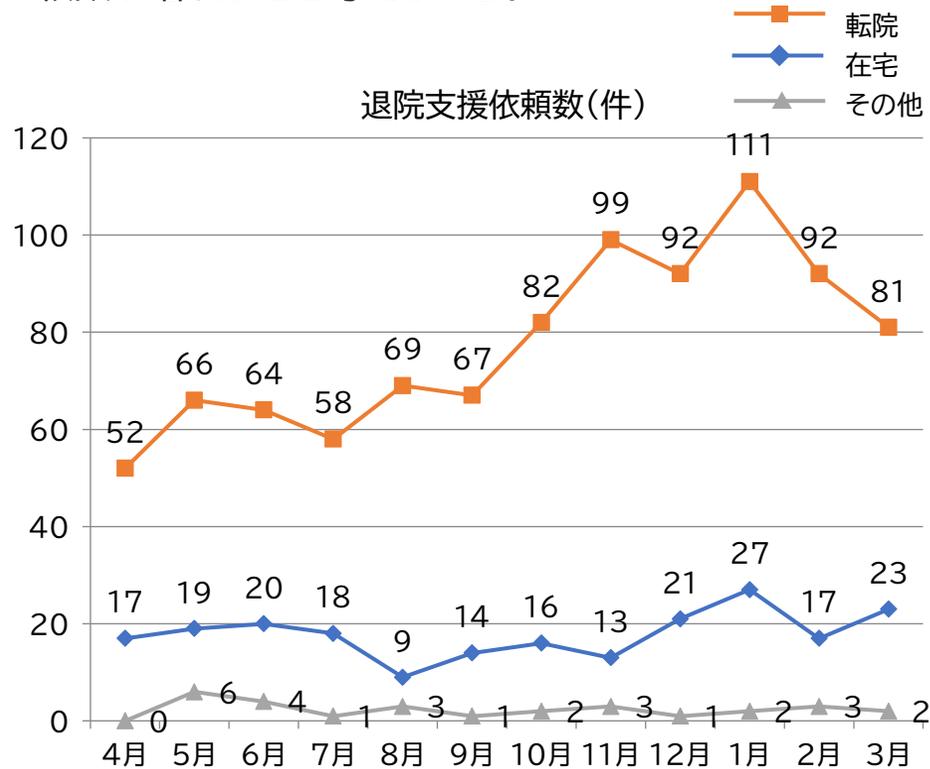
お問い合わせ TEL 053-435-2772
医療福祉支援センター 受付 平日 9:00~17:00



1 退院支援依頼と実績

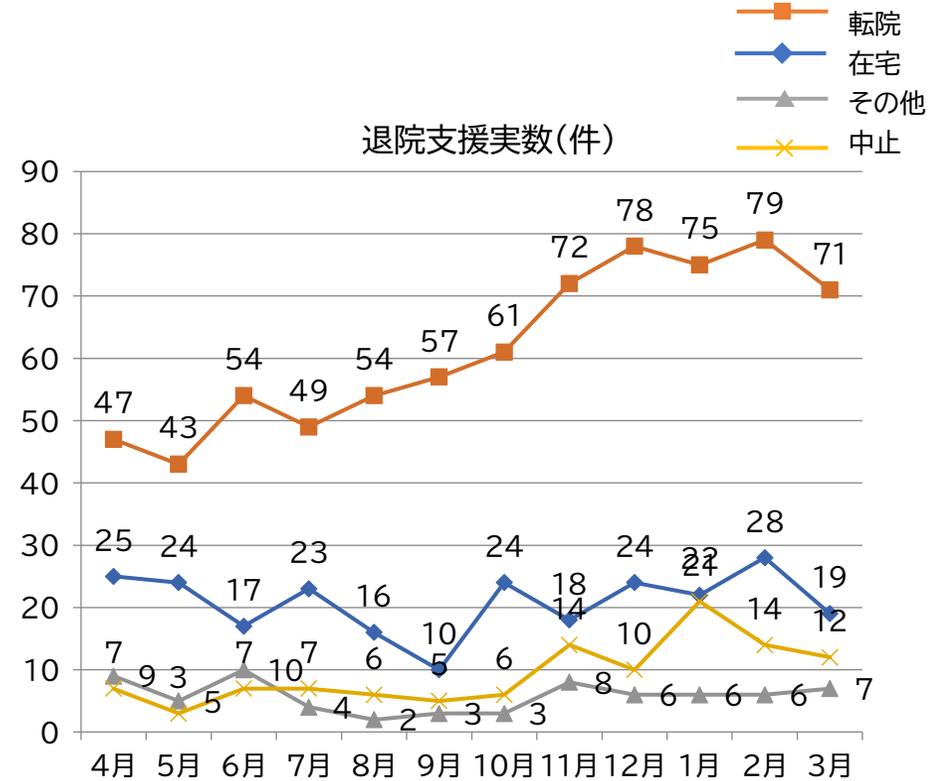
+ 退院支援依頼

令和4年度の退院支援依頼数は、1,175件で前年度より105件増加した。例年、冬季になると心筋梗塞、脳梗塞の入院患者が増加し、それに伴い依頼数も増加傾向になるが、今年度は10月以降毎月100件以上の依頼が提出されていた。病院全体の稼働率が高かったこともあり依頼数が増加したと考えられる。



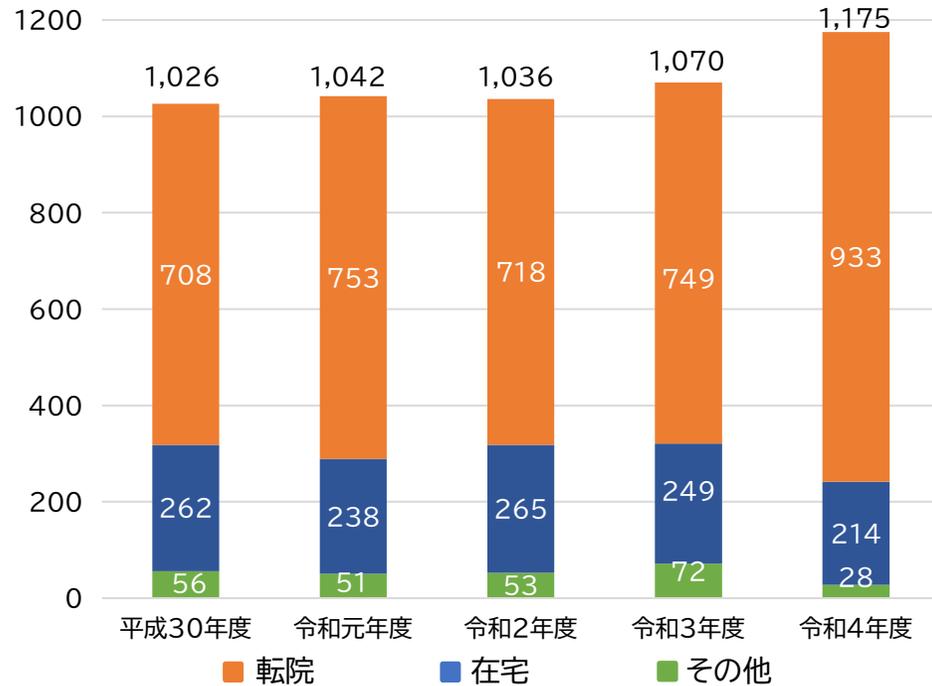
+ 退院支援実績

退院支援実績は、在宅調整250件、転院調整740件、その他調整69件であった。この割合は例年通り大きな変化はなく、転院調整(その他施設入所等も含める)が全体の7割程度を占めている。





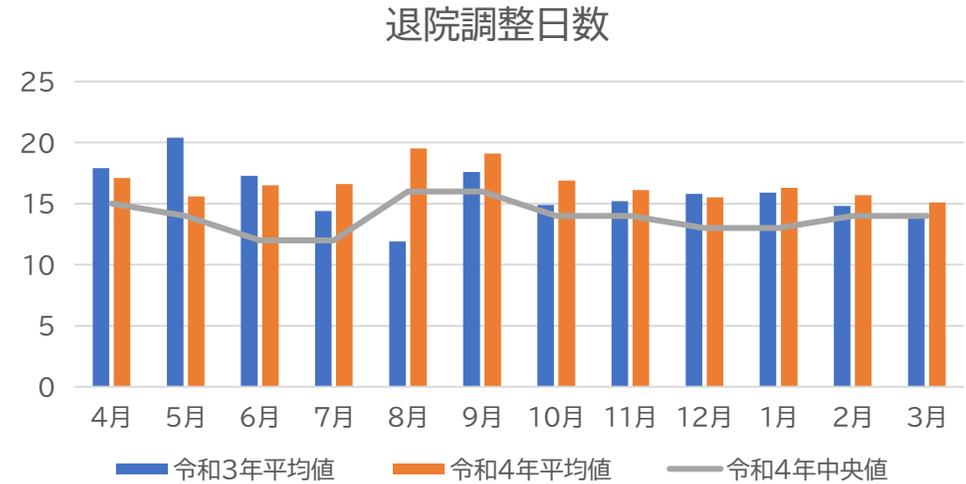
2 退院支援依頼件数の年次推移



退院支援件数は増加しており、令和元年以降は1000件/年を維持している。今年度は、過去最高の依頼数となった。

当院での急性期治療を終え、回復期病棟や地域包括ケア病棟を有する近隣病院などへ転院するケースが増えており、地域における病床機能分化が進んでいる事が伺える。

3 退院調整日数



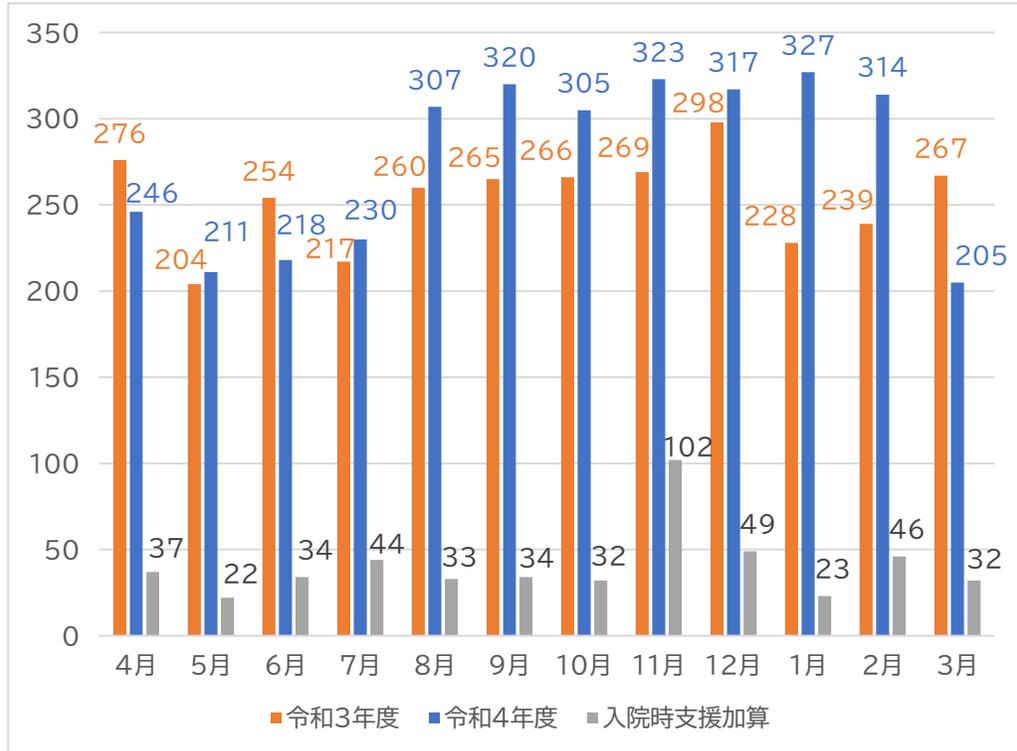
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和3年平均値	17.9	20.4	17.3	14.4	11.9	17.6	14.9	15.2	15.8	15.9	14.8	14.1
令和4年平均値	17.1	15.6	16.5	16.6	19.5	19.1	16.9	16.1	15.5	16.3	15.7	15.1
令和4年中央値	15	14	12	12	16	16	14	14	13	13	14	14

退院支援依頼を受けて介入を開始してから退院までに要した日数を「退院調整日数」と定義する。

今年度の平均調整日数は16.7日、中央値は14日であった。在院日数が短縮している昨今、退院調整が必要な場合は2週間程度を要するため、早めに意思決定や方向性を定めて、退院調整の介入依頼をしていただく必要がある。

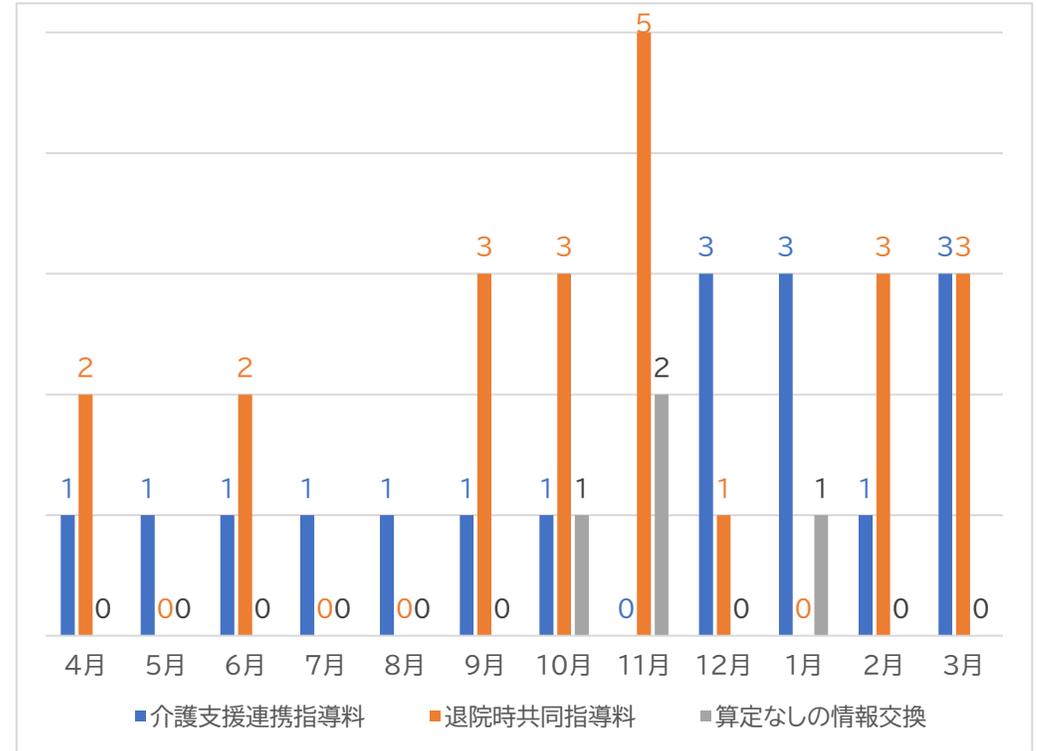


4 入退院支援加算2算定数件数



入退院支援加算2の算定数は2636件であった。先端医療センターに入院予約カウンターが移転し、全室個室対応となった。プライバシーの保護が強化され、入院前から患者家族に寄り添った介入が出来るようになった。

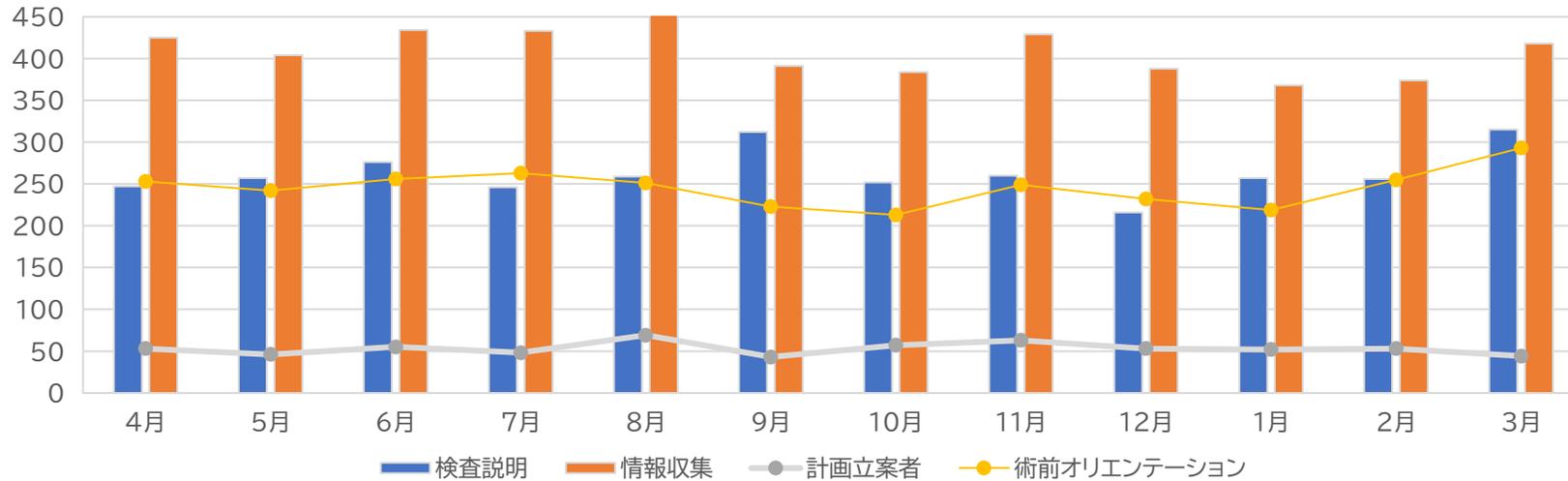
5 院外・地域との情報交換や訪問



昨年に引き続きコロナ禍の影響を受け、院外からの出入りなど制限が設けられたままであり、介護指導連携指導料や退院時共同指導料の算定数は少ない。地域との連携は、引き続き今後の課題である。



6 入院予約・検査説明カウンター実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査説明	247	257	276	246	259	312	252	260	216	257	256	315	3,153
情報収集	425	404	434	433	470	391	384	429	388	368	374	418	4,918
計画立案者	53	46	55	48	69	43	57	63	53	52	53	44	636
術前オリエンテーション	253	242	256	263	251	223	213	249	232	219	255	293	2,949

【令和5年度目標】

- ・病棟と連携して早期より患者に必要な介入を考え、患者、家族の望む入退院支援の強化ができる
- ・複雑化する患者家族の社会的背景をふまえ、意思決定を支援する
- ・メディカルサポートエリアや他部署と情報共有する中で、潜在的な問題にも早期から着目しシームレスな看護を提供する



がん相談支援センター
Cancer Support Center

04 がん相談支援センター

今年度がん相談に当たった回数は3,510回、月平均では約292回となった(表1)。その内初めて利用した方の相談回数は年間751回。月平均にして約62回。今年度がん相談の2割が初めて相談に来る方であった(表2)。

昨年度と比較し相談回数は増加したが、初めて相談に来た方の相談回数の割合は同じである。新規相談患者が相談しやすい窓口であるとともに、初回相談後も何か困り事があった時に継続して相談できる場所としても活動していきたい。

受診方法別相談回数 前年度比較(回)

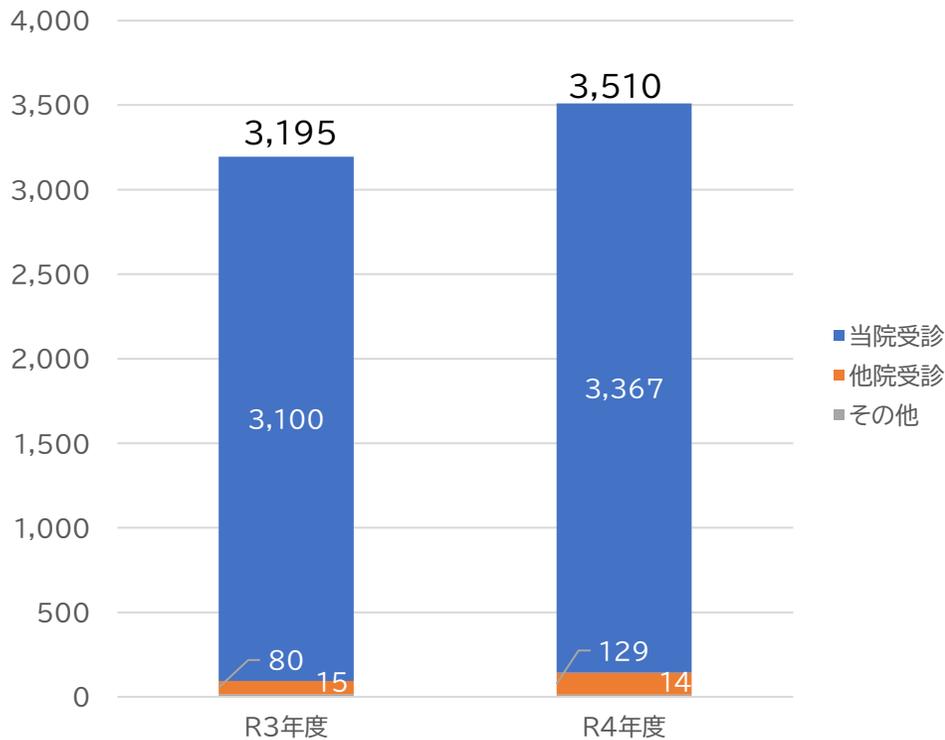


表2 利用回数 前年度比較(回)

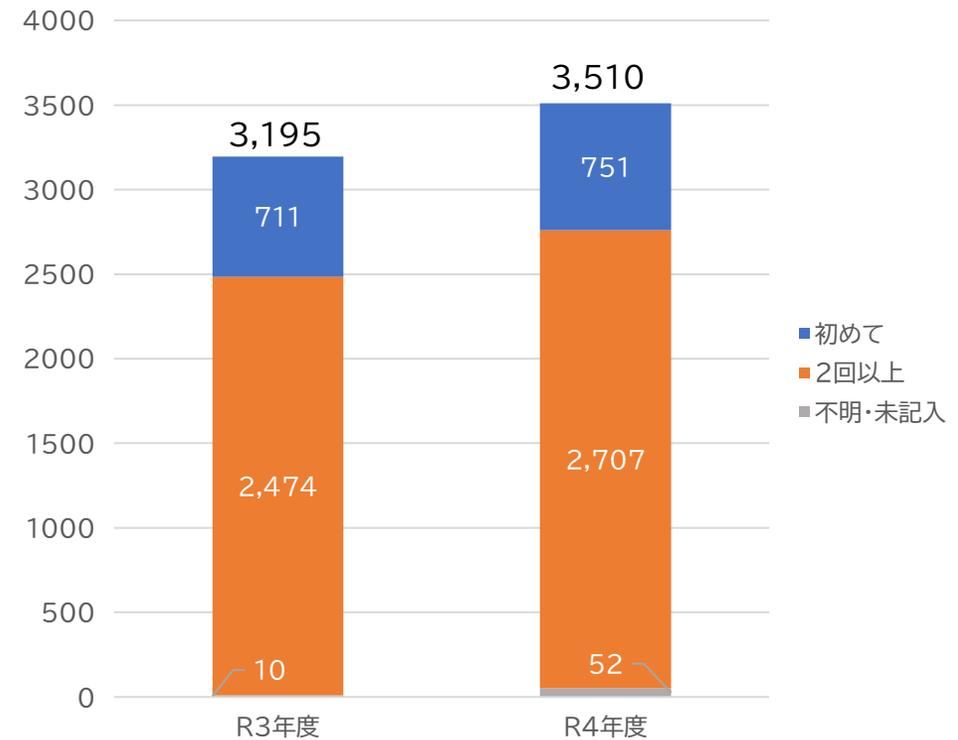


表3 男女・年齢別相談回数(回)

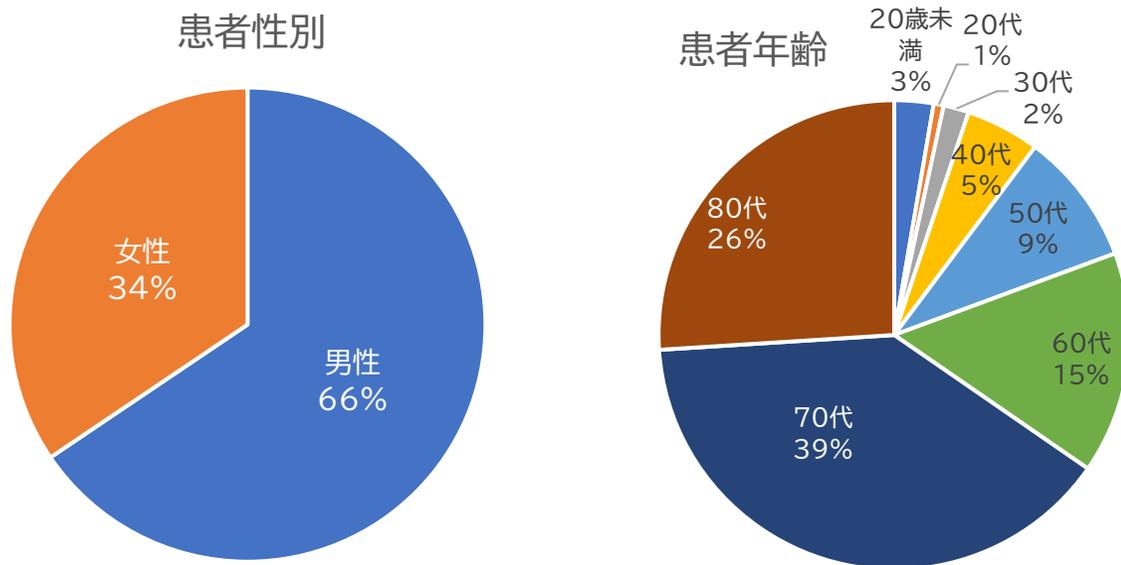


表4 年間 相談内容 トップ10(回)

1位 在宅医療	1,380
2位 転院	1,059
3位 医療費・生活費・社会保障制度	271
4位 ホスピス・緩和ケア	131
5位 療養	92
6位 介護	91
7位 医療機関の紹介	57
8位 受診方法・入院	54
9位 看護	50
10位 放射線治療	33

男女、年齢別相談回数では、70代以上の男性についての相談が多くなっている(表3)。相談内容では「在宅医療」「転院」、「医療費・生活費・社会保障制度」の順で多くなっている(表4)。入院中の方への在宅・転院調整がほとんどであるが、外来で放射線治療や化学療法にかかるお金や、在宅生活を心配する方の相談も多い印象。今後も積極的に支援を続けていきたい。

04 がん相談支援センター

乳がん患者会スノードロップ

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、8月、10月、1月は時間短縮をして開催。
患者さんからの希望もあり、感染対策を行ったうえで対面にて実施した。
コロナ渦の規制が緩和されることにあわせ、患者さんのニーズに合わせた企画が行えるよう少しずつ活動の幅を広げていきたい。

令和4年4月27日	のんびりフリートーク	当院 乳腺外科 小泉圭医師
令和4年8月24日	「見られる」から「魅せる」からだを目指す!食事の秘訣とは?	当院 管理栄養士 位田文香 氏
令和4年10月26日	日々の疑問や悩みをみんなで共有しよう! ～できる限り乳がん認定看護師がお答えします～	当院 乳がん看護認定看護師 箕浦侑加 氏
令和5年1月25日	椅子に座ってできるほっこりヨガ ～ヨガでココロとカラダをあたためよう～	ヨガインストラクター 牧野あずみ 氏

就労相談会

静岡県産業保健センターの治療と仕事の両立支援についての専門家である、両立支援専門員と協力し、無料の就労相談会を企画している。今年度は1件申し込みがあり実施した。がんに限らず相談希望のある場合は、随時患者さんを両立支援専門員へ紹介している。

がんは通院治療中心になってきており、定期的な通院のため休職する方、中には退職を検討する方も多い。退職するという選択ではなく、治療をしながら就労継続していけるよう支援している。

04 がん相談支援センター

ハローワーク出張相談会

ハローワーク職員が当院に来院し協力して新規就労先を見つける支援をしている。定期開催には1名の参加だった。随時の相談にも対応しており、4名の方がハローワークより仕事の紹介を受けた。医師に病状の確認を行い就労の可否等確認しながら支援ができるため無理のない就労につながっていると思われる。

浜松市がん診療連携拠点4病院実務者ミーティング

がん患者の就労促進、情報共有を目的に、基本毎月浜松市内のがん診療連携拠点4病院の相談実務者が集まり、ミーティングを行っている。
9月には市内や近隣市町村でがん診療を実施している医療機関を対象に、「アピアランス等に関する医療従事者向け情報交換会」を開催。
10月は「浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会」を開催し、患者会、社会保険労務士、行政、企業、医療機関など14名が参加。
2月には、静岡県労働局と協力し、がん患者の治療と就労の両立支援セミナーを開催。市内企業を中心に医療従事者、行政など88件のアクセスがあった。
治療と仕事の両立支援を行うためには、企業の理解が必要になる。今後も講演会等を通じた普及啓発を行い、両立支援により一層力を入れていく方針である。

令和4年9月2日	アピアランス等に関する医療従事者向け情報交換会	WEB開催
令和4年10月20日	浜松・湖西地区がん患者就労支援ネットワーク協議会	ハイブリッド開催
令和5年2月13日	がん患者就労支援講演会	WEB開催



難病医療相談支援室

Intractable Disease Support Center

05 難病医療相談支援室

令和4年度 難病医療相談支援室目標

- 1 難病法の見直しに伴う制度の変化に注意し情報を収集する
- 2 オンライン研修を継続し、よりレベルアップした研修内容を目指す

+ 目標の背景

- 1 コロナ禍で延期されていた難病法の改正が令和4年度を目途に行われる予定で、難病医療費助成申請方法のオンライン化と医療費助成制度の対象とならない患者の登録について検討を予定されている。新たな規約やそれに伴う業務が発生する可能性があるため注目していく必要がある。
- 2 感染状況に関わらず、受講者の要望に沿って本年度もオンライン研修を継続するが、動画視聴のみに留まらず互いに交流が持てるような研修内容にしていきたいと考える。状況に合わせて、西部・中部・東部地区など小模で開催する方法も検討していきたい。

+ 評価・反省

- 1 本年度から受給者証の医療機関の追加記載が必要なくなった。その他、軽症者に対する登録者(仮)の発行や医療費助成有効期間の前倒しが国会で検討されたが改正案で留まっている。今後も注目していく。
- 2 常に変化する感染状況を鑑みると、対面研修会は開催直前の中止のリスクがあり計画が難しい。反面、気軽に参加できるオンライン研修の希望は多い。そのため本年度はすべての研修会をオンライン開催とした。対面での交流はできていないが、アンケートに記載された質問内容に対してはホームページに返答を掲載して対応している。今後、対面研修が可能になってもオンライン研修は継続していく。オンラインと会場を同時に開催するハイブリッド開催については技術や予算的に難しいと思われる。

05 難病医療相談支援室

活動実績

【主催】

難病医療従事者研修会(※表1)

難病診療科調査(医療ネットしずおか掲載)

災害時難病患者受け入れ訓練 2回

難病患者災害連絡協議会

就労相談会 5回開催

難病ニューズレター発行 第26・27・28号

【参加】

事例検討会 静岡県難病情報交換会 7回

研修会
パーキンソン病セミナー
静岡県難病セミナー
難病克服支援WEBセミナー
難病医療に関わるコーディネーター研修セミナー
パーキンソン病WEBセミナー

学会 難病看護学会学術集会

相談会 西部難病医療相談会

令和5年度 難病医療相談支援室目標

- 1 次世代に継続できるように難病医療相談支援室の業務をマニュアル化する。
- 2 難病患者の災害時在宅人工呼吸器装着患者受け入れ訓練を院内に浸透させる。

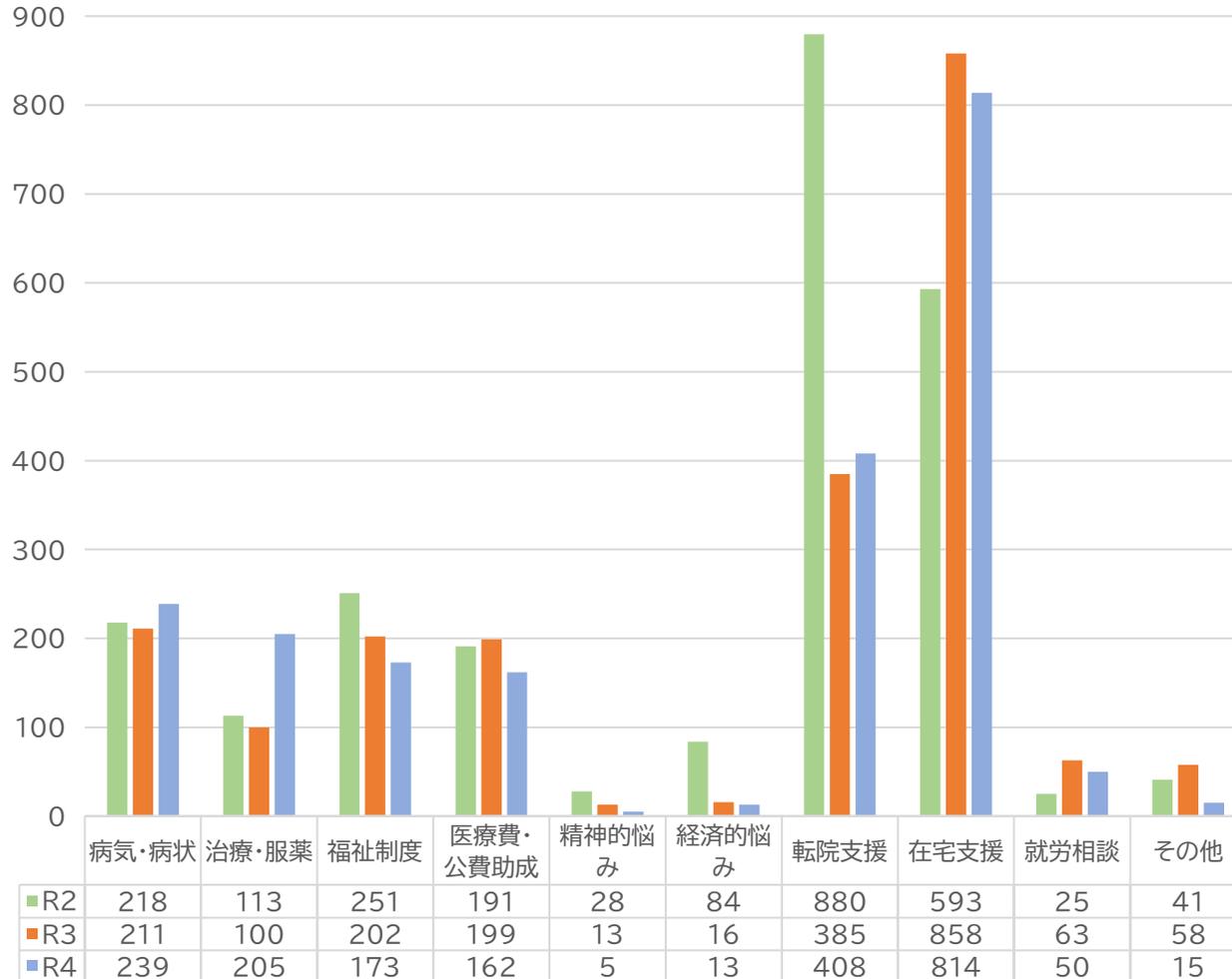
目標の背景

- 1 本年度から難病カウンセラーが交代することとなった。業務引継ぎのため、研修の開催方法のマニュアル化はできているが、難病コーディネーターが主に行ってきた退院支援等のマニュアル化はできていない現状である。業務分担の再考や今後の業務継続のためには全てにおいてマニュアル化が必要である。
- 2 コロナ禍で中止されていた災害時在宅人工呼吸器装着患者受け入れ訓練が、令和4年度から再開された。これまでは特に院内に公表はせず、疾病対策課と難病医療相談支援室が連携して難病協力病院に発信してきたが、今後は院内にも何らかの方法で情報を伝えて、より現実的な訓練になるよう進化させていきたいと考える。

05 難病医療相談支援室

難病相談

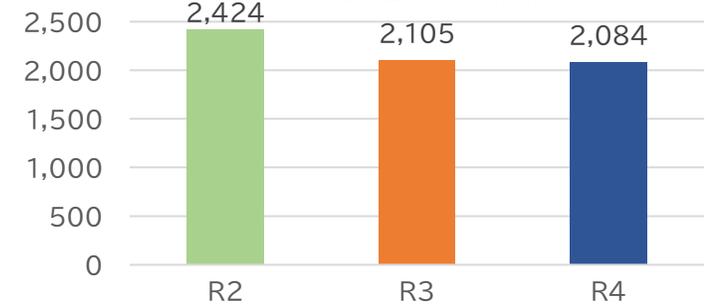
内容別相談回数(回)



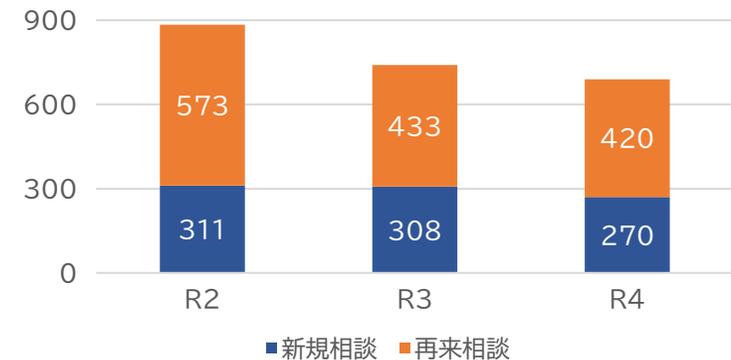
性別・年齢別相談者数(人)



総相談回数(回)



新規・再来相談件数(件)

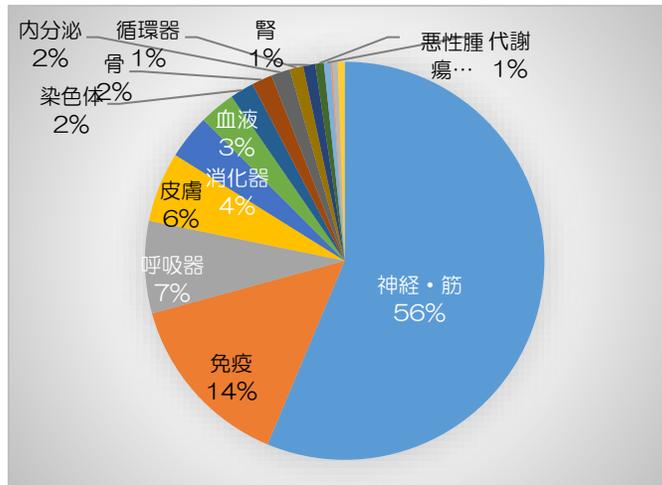


05 難病医療相談支援室

難病疾患(件)※上位15疾患



相談疾患群割合 (%)



少数相談疾患(疾患群別)

神経・筋	重症筋無力症	消化器	クローン病	血液	自己免疫性溶血性貧血	
	進行性多巣性白質脳症		クローンカイト・カナダ症候群		キャッスルマン病	
	ギランバレー症候群		遺伝性膵炎		EVANS症候群	
	筋ジストロフィー		好酸球性消化管疾患		骨髄線維症	
	CIDP		原発性胆汁性胆管炎		再生不良貧血	
	もやもや病		好酸球性胃腸症		骨	後縦靭帯骨化症
	強直性脊髄炎		自己免疫性肝炎			特発性大腿骨骨頭壊死症
	瘻性麻痺		慢性膵炎		腎・泌尿器	一次性ネフローゼ
	結節性硬化症		循環器			特発性拡張型心筋症
	脊髄性筋萎縮症				マルファン症候群	IgA腎症
	先天性ミオパチー		拡張型心筋症		腎性低尿酸血症	
	脳表ヘモジデリン沈着		硬膜動静脈瘻		多発性嚢胞腎	
	免疫		自己免疫性後天性凝固因子欠乏症		呼吸器	特発性肺線維症
IgG4関連疾患		肺動脈性肺高血圧症	21トリソミー			
多発血管炎性肉芽腫症		慢性血栓性肺高血圧症	4P-症候群			
ベーチェット病		内分泌	下垂体前葉機能低下症	ゴーリン症候群		
好酸球性副鼻腔炎			ACTH単独欠損症	SLC13A5変異		
若年性特発性関節炎			下垂体ADH分泌異常症	無脾症候群		
パージャール病			多発性内分泌腫瘍症	悪性腫瘍	髄芽腫	
皮膚		尋常性天疱瘡	副甲状腺機能低下症		ユーイング肉腫	
		線維筋痛症	代謝	急性白血病		
		神経線維腫症		ミトコンドリア脳症	その他	慢性疲労症候群
象皮症	ミトコンドリア病	ライソゾーム病	思春期早発症			
視覚	中隔視神経形成異常・ドルモア症候群	視覚	中隔視神経形成異常・ドルモア症候群	不明	統合失調症	

05 難病医療相談支援室

難病医療従事者研修会（オンライン）

パーキンソン病との上手なつきあい方

講師 浜松医科大学医学部附属病院 脳神経内科特任教授
神経・難病センター長 兼 難病医療相談支援室長
中村友彦 先生

ALSの摂食嚥下ケア

講師 浜松医科大学医学部附属病院 摂食嚥下障害看護認定看護師
清水翔太郎 先生

難病患者の心理的理解—ケアにつなげるための—

講師 浜松医科大学医学部附属病院 精神科神経科
臨床心理士/公認心理師
望月洋介 先生

災害時難病患者受け入れ訓練

3年ぶりに静岡県が行う「地震対策オペレーション2023（大規模図上訓練）」に参加。
難病医療協力病院に対し、難病患者の受入可否の状況及び病院の被災状況について照会をメールで行い、疾病対策課に回答結果を報告。
過去最高の31病院より返信があった。
当院DMAT医師も難病災害メーリングリストに追加。
災害時の難病患者さんの対応について、今後どのように連携していくか検討していく。

静岡県難病患者災害連絡協議会

平成27年度より、静岡県健康福祉部疾病対策課と共同開催。滋賀県難病医療コーディネーターの役割、災害に関する国の動向と対策、避難行動要支援者個別避難計画の状況、ネットワークを活用した停電への対応例、災害予防期の行政・看護介護職・医療機関の役割について講演頂き、質疑応答を行った。

出席者 県内の難病診療連携拠点病院及び難病診療連携協力病院の医師・看護師・MSW、防災担当や総務担当、健所難病担当者

滋賀県難病医療連携協議会における難病医療コーディネーターの活動と災害時対策への取り組み

講師 滋賀医科大学医学部附属病院
看護部 小池ゆかり様

難病患者と災害対策

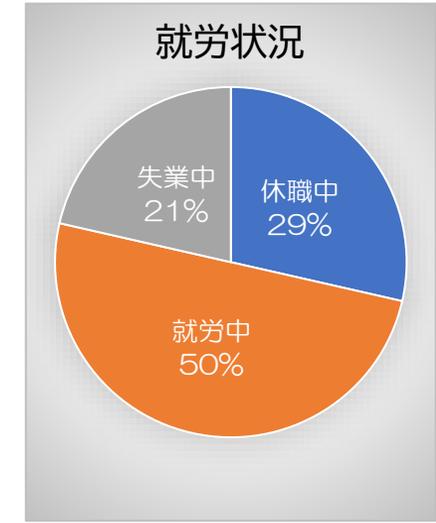
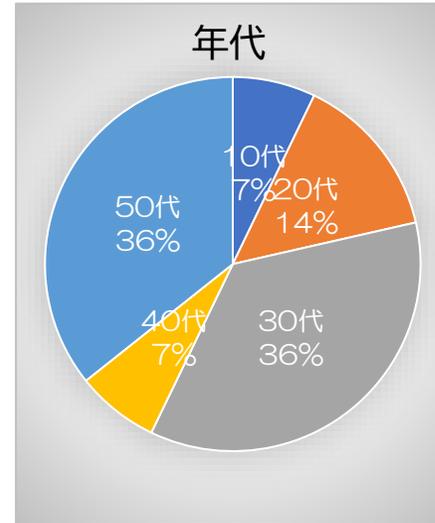
講師 医療法人社団泰平会 城西クリニック
副院長 溝口功一 様

05 難病医療相談支援室

難病患者さんのための就労相談会



2017年より開催。毎回、定員数の参加申し込みが有り、今年度は5回開催した。



開催日

第1回	2022年5月27日
第2回	2022年7月22日
第3回	2022年10月20日
第4回	2023年1月20日
第5回	2023年3月10日

【相談疾患】

消化器系疾患
 ・潰瘍性大腸炎
 ・クローン病
 ・好酸球性胃腸炎
 ・遺伝性膵炎

循環器系疾患
 ・特発性拡張型心筋症
 ・マルファン症候群

悪性腫瘍
 ・甲状腺乳頭癌
 ・髄芽腫

・多発性硬化症/視神経脊髄炎 (神経・筋系疾患)
 ・全身性エリテマトーデス (免疫系疾患)
 ・下垂体機能低下症 (内分泌系疾患)
 ・特発性大腿骨頭壊死症 (骨・関節系疾患)
 ・ターナー症候群 (染色体・遺伝子異常)



肝疾患連携相談室

Liver Health Support & Counselling Services

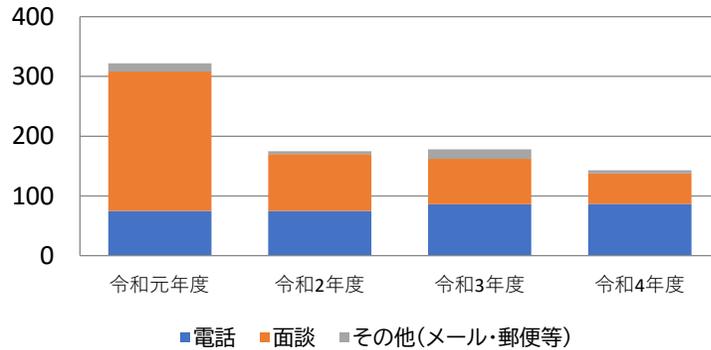
06 肝疾患連携相談

静岡県肝疾患診療連携拠点病院事業実施報告

相談支援事業

令和4年度の肝疾患連携相談室の相談件数は、年間143件（電話87件、面談51件、その他5件）であった。肝炎給付金の相談が39件、肝炎助成制度の説明・相談が32件であった。

相談件数の年次推移

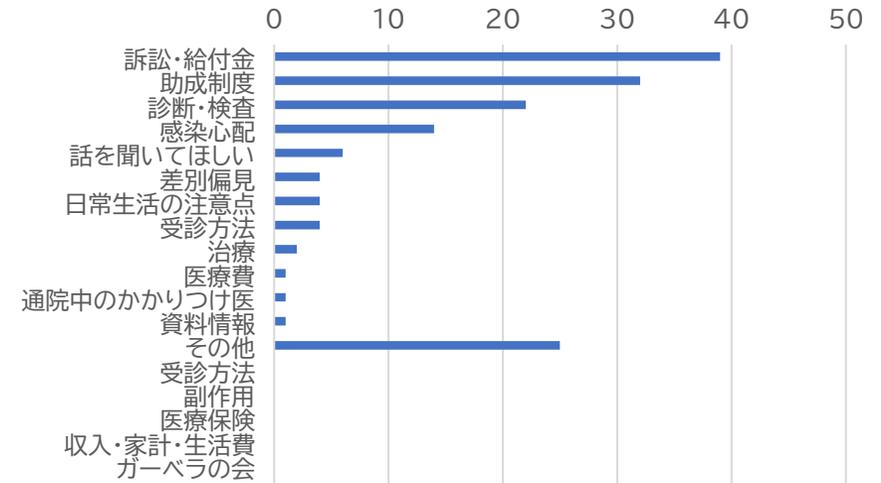


肝疾患診療連携拠点病院等連携連絡協議会

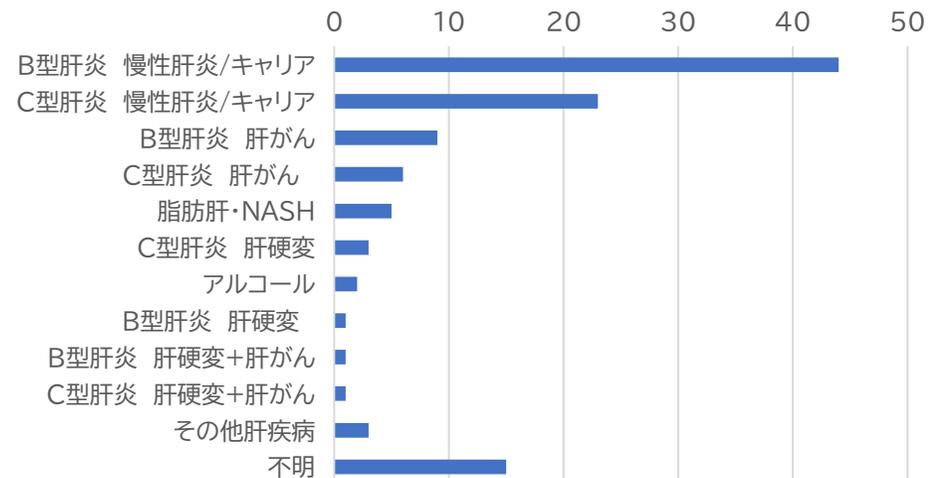
肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会は、静岡県肝疾患診療連携拠点病院である当院と順天堂大学医学部附属静岡病院が1年毎の交代制となり、令和4年度は当院が企画・運営し連絡協議会を開催した。

参加者:52名

令和4年度 相談内容別件数



令和4年度 疾病別件数



06 肝疾患連携相談

医療従事者、地域住民等を対象とした研修会、講演会等

【1】医療従事者を対象とした研修会等

2022年6月29日(水)	静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会	【集合型】
参加者:	医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(20名)	
内容:	「静岡県の肝炎対策」「B型肝炎に関する最近の話題」「グループワーク」	
2022年11月16日(水)	静岡県肝炎医療コーディネーター養成研修会	【WEB配信】
~11月30日(水)		
参加者:	医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(131名)	
内容:	「静岡県の肝炎対策及びコーディネーターに期待される役割」 「患者団体の活動」「ウイルス性肝炎の診断と治療」 「肝硬変、肝がん、NASH等の診断と治療」「拠点病院の活動報告」	
2022年12月14日(水)	静岡県肝炎医療コーディネーター登録更新研修会	【集合型】
参加者:	医療機関職員・市町・保健所・企業・団体・かんゆう会等患者団体等(28名)	
内容:	「静岡県の肝炎対策」「B型肝炎ウイルスに対する知識の整理」 「自己紹介及び名刺交換、肝炎理解度クイズ・解説」	

06 肝疾患連携相談

【2】患者、患者家族及び地域住民を対象とした講演会等

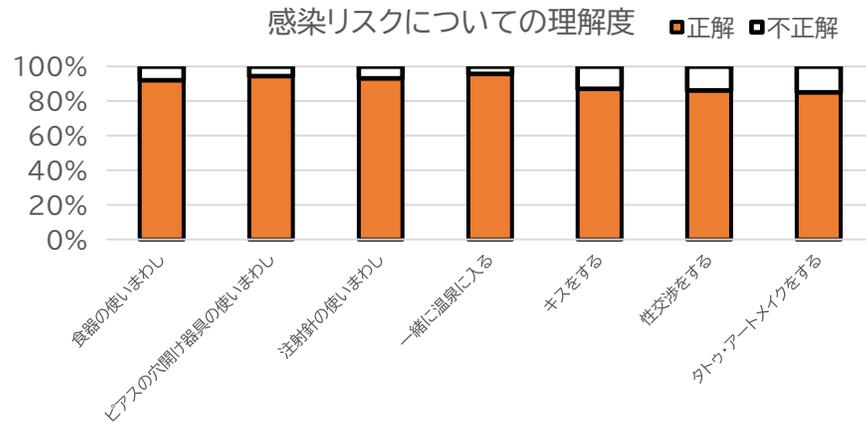
1) 市民公開講座『もっと知ろう！肝臓病』

2022年10月15日(土) 森町【集合型】 参加者:26名	「肝がんを予防するために今からできること」 「脂肪肝予防の食事について」 共催:静岡県西部保健所
2022年11月3日(木) 牧之原市【集合型】 参加者:29名	「肝がんを予防するために今からできること」 「コロナだけじゃない！これからの感染症対策」 共催:静岡県中部保健所
2023年2月11日(土) ~3月12日(日) 【WEB配信】 再生総件数:774件	「ウイルス性肝炎について」 「脂肪肝について」 「肝がんについて」 「肝炎助成制度の紹介」 共催:浜松市、静岡県西部保健所、静岡県中部保健所

2) 出張肝臓病教室

静岡県内の中学生及び高等学校を対象とした肝臓病教室を17校開催し、理解度及び肝炎ウイルス検査受検/治療勧奨に関するアンケートを実施した。

※静岡県肝疾患診療連携拠点病院が協同し実施



当院実施校/参加人数(対象)

浜松大平台高等学校【定時制】 全校生徒 472名	磐田北高等学校 全校生徒 734名	浜名高等学校 3年生 365名
富士宮東高等学校【定時制】 全校生徒 59名	磐田南高等学校【全日制】 全校生徒 939名	浜松工業高等学校 全校生徒 1,068名
吉原工業高等学校 全校生徒 414名	伊東高等学校【定時制】 全校生徒 35名	藤枝順心高等学校 3年生 140名
藤枝明誠高等学校 全校生徒 330名	葦山高等学校 全校生徒 853名	磐田南高等学校【定時制】 全校生徒 126名
科学技術高等学校 全校生徒 347名	元吉原中学校 全校生徒 123名	袋井商業高等学校 全校生徒 424名
大井川中学校 全校生徒 515名		

06 肝疾患連携相談

肝疾患診療に関する情報収集及び情報提供

1 肝炎に関する普及啓発と感染予防の推進活動

1) 一般市民への普及啓発活動

① TVコマーシャルの出演 (期間: 2022.4.29~5.15)

両拠点病院の川田医師及び玄田医師が、製薬会社のTVコマーシャルに主演

② WEB広告

期 間 2022.7.9(土)~2022.11.30(水)

内 容 WEB上(Yahoo・Google)リスティング広告、YDN/GDNディスプレイ広告、YDNインフィード広告、Instagram)に広告を掲載

方 法 WEB上の広告をクリックするとランディングページへ移行、無料肝炎ウイルス検査受検の呼びかけを行う。

また、ランディングページから保健所連絡先ページ追加し、保健所連絡先のアクセス数の把握を行った。

エ リ ア 静岡県内全域

年 齢 15歳~無制限(※GDNディスプレイ広告は、18歳以上~無制限)

利用者層 タトゥー・ピアスをしようと考えている方

(興味・関心として風俗、ドラッグなど肝炎リスクが高いと思われる方を含む)

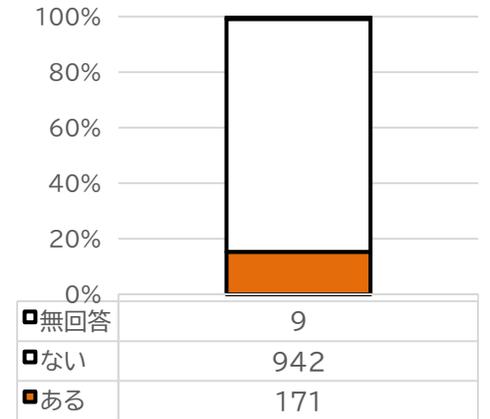
効果検証 浜松市を除く保健所において、HIV等検査申込者に対してアンケートを実施。また、保健所連絡先アクセス数とアンケート結果を検証

結 果 2021年6月~2022年12月の期間中に行われたアンケートへ回答した人数は1,122名であった。

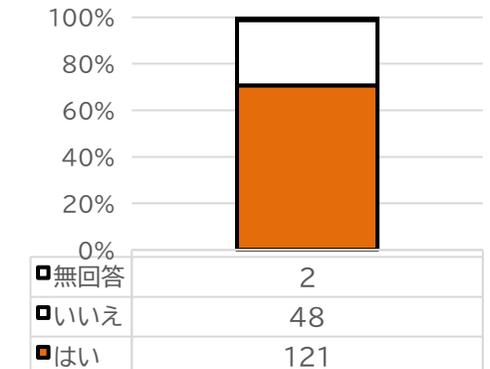
その内、171名が「Web広告を見たことがある」と回答した。

また、171名の内、121名の7割弱が「Web広告を見て肝炎ウイルス検査を受けようと思った」と回答した。

Web広告を見たとき回答した比率



Web広告を見て「肝炎ウイルス検査を受けようと思った」と回答した比率



06 肝疾患連携相談

③院内普及啓発活動

・毎月28日の啓発活動

毎月28日(土・日祝日の場合は第四木曜日)を肝炎デーとし啓発活動を実施

期 間 2022年4月～2023年3月

内 容 ポスター掲示及び患者案内システムテロップにて「毎月28日は肝デー今日はみんなで休肝日」と掲示するとともに、「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先の職員は普及啓発用の作成したマスクを着用

・肝炎デー及び肝臓週間に関する普及啓発活動

日 時 2022.7.25(月)～7.29(金)

場 所 「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先 5階西・7階西病棟・内科・外科
外来、医療福祉支援センター、入院予約カウンター等

内 容 ・「静岡県肝炎医療コーディネーター」所属先等において普及啓発活動用に作成したポロシャツ及びTシャツ、マスクを着用
・ブースを設置し肝炎クイズ及びエコバッグを配布
・第19回浜松医科大学 地域連携Webセミナーにて、川田室長が講演時Tシャツ着用

④院外普及啓発活動

・浜松市西図書館での啓蒙活動

浜松市西図書館、浜松市保健所と協力しコーナーを設置

・西部保健所主催「世界エイズデー 街頭キャンペーン」での肝炎啓発活動参加

令和4年11月26日 エコパスタジアムにおいて、静岡ブルーレヴズ×コベルコ神戸スティーラーズ戦の試合前に啓発グッズを配布



肝疾患連携相談室



06 肝疾患連携相談

2) 当院の肝炎医療コーディネーターの育成

中・高校生を対象とした肝臓病教室、市民公開講座へ参加及び毎月28日のイベント、肝臓週間期間中の啓発活動及び打合せ会を2回開催した。

1回目:勉強会、顔合わせ、2022年度肝炎デー・肝臓週間の開催準備

2回目:勉強会、2022年度報告及び2023年度の準備

2 「肝臓病手帳」の普及・推進活動の継続

肝臓病手帳配布数:193冊配布

<内訳> 医療/行政機関へ配布:6施設/105冊、一般市民へ配布:70名/70冊

保健所・図書館:2施設/15冊、薬局・薬店:1施設/3冊

3 ウイルス検査陽性者への受診勧奨の推進

1) 肝炎ウイルス検査陽性者用診療情報提供書の普及啓発活動

目的:医療機関での紹介状作成の負担を軽減し、気軽に紹介してもらうため

周知:地域連携経由医療機関へ2022年7月140施設

2023年3月肝臓内科・千田医師より開業医向け研修会において紹介

結果:肝臓内科への診療情報提供書件数は188件あり、その内HCV抗体/HBs抗原陽性者の紹介は21件となり、「肝炎ウイルス検査陽性者診療情報提供書」の使用件数は2件であった。

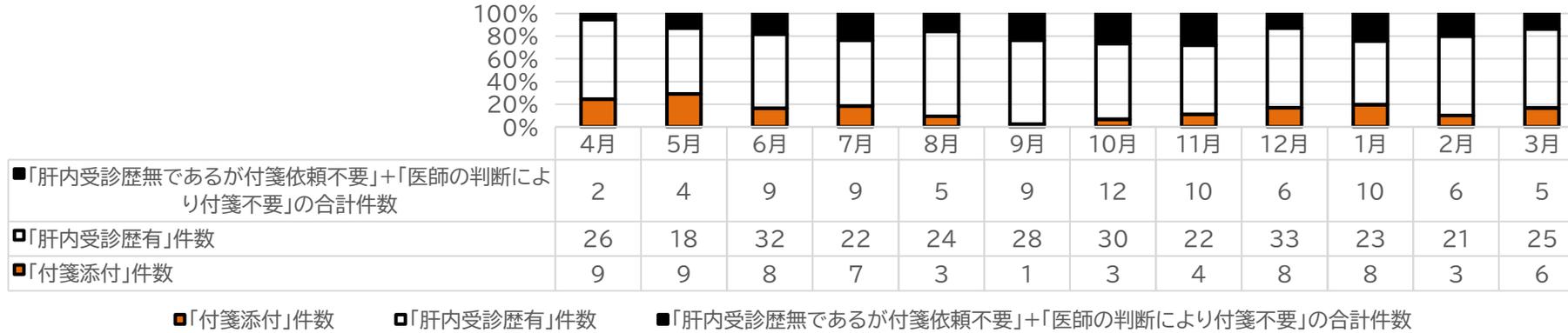
2) 肝炎ウイルス検査陽性者の院内フォローアップの推進

2018.6.1より入院患者を対象に開始し、2019.7月より外来患者も加え実施

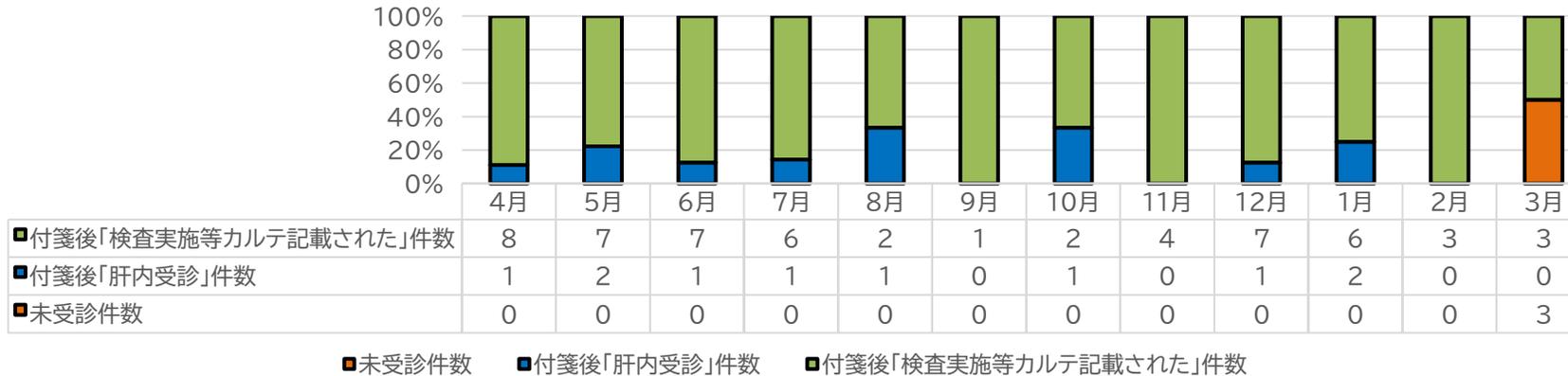
外来・入院患者の肝炎ウイルス検査陽性者をピックアップし、未受診患者の受診勧奨を医師へ依頼

06 肝疾患連携相談

肝炎ウイルス検査(HBs抗原・HCV抗体)陽性者の肝臓内科受診歴無・付箋添付した比率



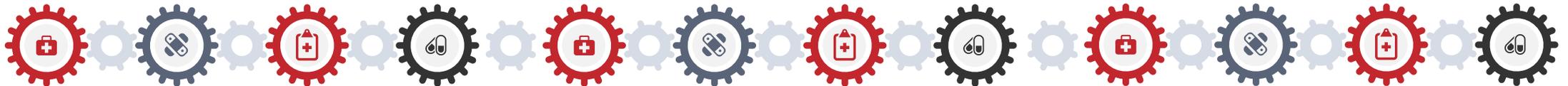
付箋後の未受診・受診等の比率

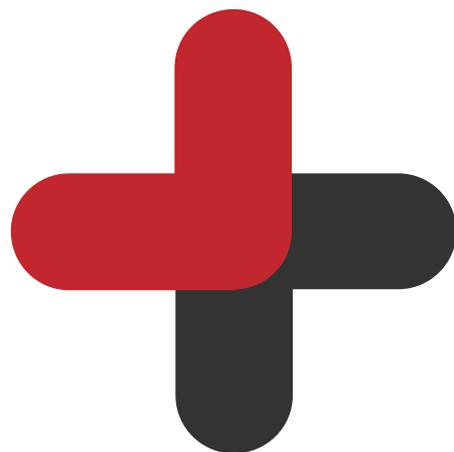


<結果>

肝炎ウイルス検査陽性者はHBs抗原279名、HCV抗体181名の合計460名であった。
 陽性者のうち304名の66%が肝臓内科の受診歴があった。残り156名の内、87名は肝臓内科の医師へ付箋依頼したが不要と判断した患者や肝臓内科への受診歴はなかったが診察記事等により付箋依頼不要と判断となった。
 69名のカルテに肝臓内科受診・検査の付箋を添付し、10名は肝臓内科受診、56名はRNA検査実施・説明若しくは他院受診となった。
 未受診者は3名であるが、3月に付箋添付をしたものである。

04 編集後記





THANKS⁺

DO YOU HAVE ANY QUESTIONS

